

## ことばの輪つなぎ

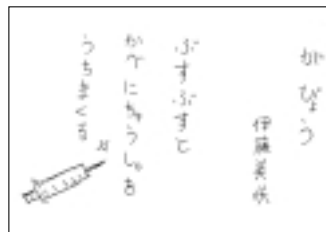
千葉県野田市立南部小学校教諭

卯月 啓子



私はどの学年を担当した場合でも、年間を通して詩を作り、年度末に子ども一人ひとりの詩集をまとめるという活動をさせてきています。

ここで報告するのは、平成十四年度五年一組(男子18名女子15名)でのことです。二月に(45分×3)時間使って、詩的表現の学習に役立つ遊びをしました。行数と文字数を制限して書きました。一行で書く詩ということで「一行詩」、二行で書く詩ということで「二行詩」と呼びました。同じように「三行詩」、「四行詩」、「五行詩」と呼びました。その中で三行詩は「五・七・五」音で、「五行詩」は「五・七・五・七・七」音で書くことと呼びかけました。

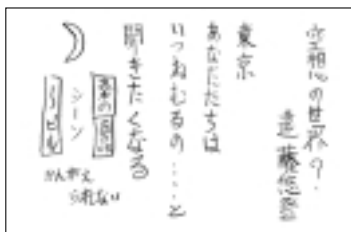


「いいよ。」と言うと、指を折って言葉の数えるなどしてまた、競争のようになして書きだしました。

### 3 四行詩が書きにくい？

その中で四

行詩が書きにくいという子が多くいましたので、まど・みちおさんの「わに」を見せました。「ああそう書けばいいのか。」と言って書きだしました。また、鉛筆が勢いよく動きだしました。

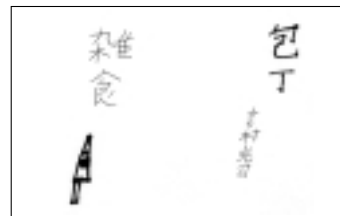


### 4 夢中になって書く子たち

下書きを見せに来る子どもたちの列が途切れることなく続きました。「わたしのは三行詩」「今度は四行詩」と、見せに来る子どもたちは、各行数の詩を作ってきました。そうやって夢中になって書いていました。気がつく(45分×2)時間たっていました。ずっと書いていても興が付きませんでした。次の日も書きたいというので、(45分×1)時間あげました。さらにどんどん作ってきました。二月七日(金)のことでした。「ぼくは三行詩がいちばん書きやすい。」とか、「わ

### 1 「一行詩」を書く

平成十五年二月六日(木)のことです。最初に子どもたちに行詩を書かせました。教科書や、ほかの本の詩人の作品を参考にして、一行詩を作りました。「ずば」と書けばいいのね。」と、書き方をつかんだ子どもたちは、おもしろがってどんどん書いてきました。国語のノートに下書きして私に合格のサインをもらおうと、B5判大の色上質紙(十色くらい用意してある)に、ちょっとしたイラストも添えて美しく清書しました。清書ができた作品は黒板に張らせました。15分くらいで、カラフルな皆の作品が黒板に張られました。



### 2 二行 三行 四行 五行で詩を書く

「簡単にできちゃうよ。」と喜んでいる子どもたちに、今度は二行、三行、四行、五行で詩を書くことと呼びかけました。「難しいな。」と言う子もいましたが、少しずつ言葉の数が違ってもいいのかと聞きた子どもたちに、「もちろ



たしは二行詩がいい。」とか言う子もいるなど、得意な行数ができた子もいました。そうかと思うと、「わたしはもつとずっと長い詩が書きたくなつちゃった。」と言って、書いてくる子も何人もいました。その子が普段書いている詩よりもずっと長い詩を書いていました。これもおもしろいことでした。最終的には少ない子どもでも、一人で六つの作品を書き上げました。多く書いた子は二十作品以上も書いていました。

黒板には皆の作品を張ることができないので、印刷して見たいという声がたくさんあがりました。そこで、二月十日(月)に、(45分×1)時間かけて、白上質紙(B4判)を16等分したスペースを作り、そこに各自が書いた詩を清書させ、印刷原版としました。『ことばの輪つなぎ』という一冊の詩集ができました。

